

# 令和元年度 自己評価表 【最終評価】

鳥取県立鳥取緑風高等学校

様式 2

|                           |  |                      |  |
|---------------------------|--|----------------------|--|
| <b>中長期目標<br/>(学校ビジョン)</b> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 基本的な生活習慣の確立による、生徒の自己管理能力の育成</li> <li>2 夢と希望を持ち、世界を広げていくことのできる生徒の育成</li> <li>3 社会のルールやマナーを遵守する生徒の育成</li> <li>4 基礎・基本の重視による、生徒一人一人の学力の向上</li> <li>5 生徒が将来の生き方を意識する進路指導の充実</li> <li>6 自律性を伴った、生徒の自主性の育成</li> <li>7 自然環境について考え、行動することのできる生徒の育成</li> </ol> | <b>今年度の<br/>重点目標</b> | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 基本的な生活習慣の定着を促す。</li> <li>2 生徒が目標を持ち主体的に取り組む授業づくりに努める。</li> <li>3 個々の生徒の課題に向き合い、自立と成長を促す指導の充実に努める。</li> <li>4 視野を広げ、他者と協力する体験活動の充実に努める。</li> </ol> |
|---------------------------|--|----------------------|--|

| 年 度 当 初   |  |   |  | 評 価 結 果 ( 1 ) 月   |  |  |   |
|---|--|---|--|---|--|--|---|
| 評価項目  | 評価の具体項目                                  | 現状  | 目標(年度末の目指す姿)   | 目標達成のための方策  | 経過・達成状況  | 評価   | 改善方策  |
| <b>基本的な生活習慣<br/>の定着</b>                           | <b>生活の自律</b>                             | <p>○昨年度の定時制昼間部ライフスタイル調査では、就寝時刻が午前1時以降の生徒が40%と多く、平日の睡眠時間が十分であると評価した生徒は39%であった。スマホ等のメディア利用平均時間は平日5.3時間と依存度は高い。自由記述には、早寝早起きしたい、睡眠時間を増やしたい、ゲームの時間を改善したい等、生活習慣の課題を自覚している生徒もみられるが改善に至っていない状況がある。</p> <p>○朝食をとっている生徒の割合が55%にとどまる。家庭の協力も得て生活リズムを整える必要がある。</p> <p>○身体的および心的な健康管理が苦手であったり、関心が低い生徒がいる。</p> <p>○挨拶をはじめとして、コミュニケーションが苦手な生徒がいる。</p> <p>○整理整頓や衛生管理が苦手な生徒がいる。</p> | <p>○時間を守り、規則正しい生活時間を過ごすことができる。</p> <p>○健康管理に関心を持ち、健康状態の向上に努めることができる。</p> <p>○挨拶を交わし、身だしなみを整えることができる。</p> <p>○身の周りの美化に配慮し、整理整頓(清掃、ロッカー整理)ができる。</p>  | <p>○学業を中心とした健康的な生活を送るために必要な生活習慣について、振り返りをさせるとともに具体例(起床・就寝時刻、睡眠時間、歯と口の健康の保ち方)を提示する。</p> <p>○健やかな生活習慣を確立する具体的手立てを考えさせたり、実際に行ったりする場面を設ける。</p> <p>○生活習慣の改善について保護者と連携して働きかける。</p> <p>○積極的な挨拶や声かけ、丁寧な面談を通して良きコミュニケーションの具体例(対人関係における挨拶ことばや対話)を提示し、習慣づけを働きかける。</p> <p>○ロッカー内チェックと整理指導を行う。</p> | <p>○時間を守ることに伴って、様々な場面での指導により行動が伴いつつある。</p> <p>一方、利己的な行動をする生徒も若干いた。</p> <p>○長期休業中前にロッカー内チェックと整理指導を行った。</p> <p>○校舎内外はきれいに保たれているものの、ごみの分別や資源の節約など、環境問題についての意識が減退した。</p> <p>○アルバイトと両立している生徒が半数以上の中、60%程度の生徒が、平日の良好な睡眠を確保できおり、健康的な睡眠習慣で学校生活を送っている。一方、スマホやゲーム等の使用時間が長く、深夜に及んでいる生徒もいる。</p> <p>○歯と口の健康の昨年度との比較は、通信制と定時制2・3年次でむし歯保有率が低下し、歯みがき習慣化の向上がみられた(3回以上13%→28%)。</p> <p>○むし歯多数・歯垢多量・歯肉炎の生徒への個別指導、歯垢染め出しとブラッシング指導を行い、セルフケアの方法をともに考え、意識と習慣化の向上を図った。</p> | <b>B</b>   | <p>○基本的な生活習慣の定着・自立に向けてより一層の声かけ・注意喚起等に努める。</p> <p>○今後もロッカー等の整理整頓の指導を継続する。</p> <p>○ごみの分別指導を通し、環境問題についての意識を高める取組を行う。</p> <p>○来年度も引き続き、健康的な睡眠習慣の定着、歯と口の健康を中心とした健康意識の向上に努める。</p> <p>○集団と個別の保健教育を行い、保健だよりや掲示物等で健康に関する意識の向上を図り、実践可能な役立つ情報の発信を継続する。</p>                         |
|   | <b>生徒が目標を持ち<br/>主体的に取り組む<br/>授業づくり</b>   | <b>個に応じた<br/>学力の向上</b>  | <p>○目標を持って真面目に授業へ取り組み、基礎学力を高めている生徒もいるが、様々な要因により学力や授業に臨む姿勢の差が大きい。また、学力が向上したと実感している生徒が少ない。</p> <p>○定時制の単位修得率は61.3%と昨年度比で微増した。</p> <p>○通信制の単位修得率は全国平均を上回る水準であった。</p>  | <p>○社会生活を営むために必要な基礎学力を養成する。</p> <p>○上級学校の入学試験や就職試験に対応できる学力を養成する。</p> <p>○「授業は工夫されていてわかりやすい」の肯定的な生徒の回答率が80%以上である。</p> <p>○選択した科目を欠席しない環境を醸成する。その結果、定時制生徒の単位修得率は65%以上、通信制生徒の単位修得率は70%以上である。</p>   | <p>○授業を工夫・充実させるとともに、まなトレ・課外指導を実施したり、校外模試を活用したりする。</p> <p>○毎日の声掛けや個別具体的な支援、教員間の情報交換によるきめ細かい指導を行う。</p> <p>○ICTを活用することで、自分の弱点に応じた個別学習を充実させる。</p> <p>○学生教育ボランティア(緑風ソシオ)により学習指導補助を充実させる。</p>  | <p>○生徒アンケート結果で、授業は工夫されていてわかりやすいと肯定的回答が79.3%、教職員の丁寧な対応については85.6%と高い数値であった。</p> <p>○生徒の学力は、反復学習の不足のため、その定着や向上に繋がりにくい。</p> <p>○まなトレの取組みは課題(学力の実態との差、自学自習が苦手な生徒等への対応)があるものの、意欲的に取組む生徒が増え、教え合う姿も見られた。学び直しや進路実現へ取組みにも活用できた。</p> <p>○年間の単位修得率は定時制が67.6%、通信制は84.9%でどちらも目標以上であった。</p> <p>○多くの授業でICTを活用しているが、生徒が自分自身で学習を進めるまでには至っていない。</p> <p>○緑風ソシオは6名の学生の協力が得られた。</p> <p>○課外指導、校外模試の活用は少なかった。一方、定期的に課外指導に継続的に取り組み、力をつける生徒もあった。</p> | <b>B</b>  |
| <b>生徒が目標を持ち<br/>主体的に取り組む<br/>授業づくり</b>            | <b>意欲向上と<br/>自信づくり</b>                   | <p>○進路意識の高揚が見られている。昨年度アンケートでは卒業後の進路を具体的に考えている生徒は全体で63%と過半数以上であった。また、進路準備のために何か始めていることがあると答えた生徒は52%であった。</p> <p>○教職員の工夫により、学習意欲の向上が見られた。しかしながら、一部自信がなく将来の希望が持ちにくい生徒もおり、応募先、受験先が決まらないなど苦戦した。</p>  | <p>○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を養成するとともに進路目標が明確となる。</p> <p>○各種資格試験、検定等に1人1受験を目指す。</p> <p>○高校生活が全体的に満足していると感じている生徒が、定時制では65%以上、通信制では75%以上である。</p>  | <p>○「勉強+α」を推進する(α:資格取得等)。</p> <p>○各種資格試験、検定のきめ細かい案内。適性のある生徒に対して、個別に受験を勧める。また受験者には個別の支援を行う。</p> <p>○特別支援教育支援員が、授業のサポートを行うことで、学習意欲の向上につなげる。</p>   | <p>○資格試験について、全般的に受験者数は減少したものの、高卒認定試験や危険物取扱者試験など多様な検定等に挑戦した生徒もいた。</p> <p>○特別支援教育支援員のサポートで、生徒が安心して授業に取組めた。</p> <p>○本校での高校生活に全体的に満足しているとの肯定回答は、定時制が68.5%、通信制が87.8%で、どちらも目標以上の達成であった。</p> <p>○外部講師による授業やガイダンス等、生徒の意欲向上に役立った。</p> <p>○資格取得について、生徒は、授業に関連して受験できるものや、希望進路に関連する検定に意欲的に取組めた。</p>  | <b>B</b>   | <p>○教育活動の様々な機会を利用し、自己肯定感を高めたり、自信が持てるような場面を設定する。</p> <p>○検定の種類、資格取得の意義をわかりやすく伝え、卒業までに1つ以上の取得を目指す等、積極的な挑戦を働きかける。</p> <p>○生徒の実態にあった講師を招聘し、よりよい研修を企画する。</p> <p>○入学当初からの面談で検定受験の意識付けをしたい。検定取得の意義やメリットなどの情報を発信する。</p>   |
| <b>個々の生徒の課題<br/>に向き合い、自立<br/>と成長を促す指導<br/>の充実</b> | <b>生徒の内面<br/>を理解し<br/>それを生かした<br/>指導</b> | <p>○担任をはじめ、SC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)、養護教諭による日常的な個人面談やカウンセリングが定着している。</p> <p>○入学前不登校であった生徒のうち、半数以上が改善している。</p> <p>○不登校対応など生徒支援が多様化しており、生徒理解を踏まえた校内支援体制の一層の充実が必要である。</p> <p>○関係職員が連携をとり、生徒の実態を把握するよう努めている。</p>  | <p>○生徒情報を共有し、関係職員間で連携をしながら個々の生徒の発達課題に応じた具体的かつ現実的な支援を実行している。</p> <p>○全生徒に対し、担任等による面談を年間3回以上実施する。</p> <p>○入学前不登校(年間30日以上欠席)であった新入生の状況が改善し、出席状況が前年に比べて向上している。</p> <p>○「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒の割合が80%以上である。</p> <p>○生徒の実態把握のための業務が効率的である。</p> | <p>○担任などによる個人面談や日常会話など多くの機会や様々な場面をとらえ、生徒一人ひとりのかかわりを大切に指導に努める。</p> <p>○教育相談係を隔週、SC・SSW連絡会を毎月持つことにより、個々の生徒に対する具体的な支援策を策定し実行に移していく。</p> <p>○校内支援委員会を活用した組織的な支援により、各部課程をこえた情報共有と個別支援ケースの進捗状況を把握・検討する。</p> <p>○医療機関などの各種外部専門機関と連携した支援体制を充実させる。</p> <p>○効率よく業務を推進するよう関係職員と連携する。</p>         | <p>○全員の生徒への声掛けを日常とし、担任による面談を3回以上実施したほか、SC面談等、機会を捉え行い生徒理解に努めた。</p> <p>○各部課程・学年ごとの生徒情報交換と、SC・SSW連絡会を毎月実施した。個別支援ケースについて職員間で対応策について協議し、共通理解を図り実践した。</p> <p>○「専門医による相談会」を実施し医療機関との連携を図り、一定の成果が見られた。</p> <p>○「質問や相談に丁寧に応じてくれる」と回答した生徒の割合が85.6%であり、目標値を上回った。</p>  | <b>A</b>   | <p>○SC・SSW連絡会などで今後も定期的に部課程間で情報共有する機会を持つようし、校内外の連携を密にしている。</p> <p>○不登校傾向の生徒については、引き続き関係職員と連携をとりながら改善に取り組む。</p> <p>○「個別的教育支援計画」を次年度に確実に引き継ぐなど、校内の支援体制を整え、継続した取組みとする。</p>  |
| <b>個々の生徒の課題<br/>に向き合い、自立<br/>と成長を促す指導<br/>の充実</b> | <b>自立をめざす<br/>生徒指導</b>                   | <p>○79%の生徒が、ルールやマナーを意識した行動をとるよう心掛けているが、その改善が見られたのは61%であった。昨年度と比較し数値の向上が見られたが、社会的規範を身に付ける必要性を感じつつも行動に移すまでに至っていない状況が見られる。</p>   | <p>○進路意識を喚起し、勤労観・職業観を養成するとともに進路目標が明確になる。</p> <p>○ルールやマナー向上の指導をとおして、お互いを思いやる心や自律性と自主性が身につけている。</p> <p>○ルールやマナーを意識した行動をとるよう心掛けている生徒の割合が80%以上である。</p>   | <p>○進路ガイダンスや進路LHR、CA(就職支援相談員)面談等で自己理解を深めさせ、キャリア設計能力や社会性を育成する。</p> <p>○声掛けや挨拶を交わし、言葉遣いや行動等に十分に気を配らせる。</p> <p>○規範意識が身に付くように様々な体験活動を取組む。</p>   | <p>○「マナーを意識した行動を心掛けている」と回答した生徒は82.1%と目標の値以上であった。</p> <p>○マナーを意識し、改善への行動がとれると回答した生徒の割合が増加した。</p> <p>○就職活動をした生徒の大半は、様々な進路行事への出席や面談を通じて自己理解を深め、規範意識も徐々に高まった。進学・就職ともに進路決定後もキャリア設計の課題や面談を実施し、指導を継続した。</p> <p>○支援が必要な生徒については、教育相談やハローワーク等の外部機関とも連携し、個々に合わせた指導を行った。</p>   | <b>A</b>   | <p>○挨拶や言葉遣いなど、今後も粘り強い指導を実践する。</p> <p>○卒業予定生以外の生徒に対しても、早い段階から卒業後の進路を意識させ、その実現に向けての意欲喚起を図る。</p> <p>○コミュニケーションが苦手な生徒に対し、早い段階から個別に挨拶や返事、言葉遣いなどの指導を行う。</p>   |
| <b>視野を広げ、他者<br/>と協力する体験活<br/>動の充実</b>             | <b>体験活動の<br/>活用</b>                      | <p>○社会体験等、様々な生活体験が不足している生徒が多いため「※はすわらクラブ」をはじめとする体験活動を多く取り入れている。その結果、意欲的に活動する生徒も見られた。</p> <p>○各種行事において、生徒会の生徒が中心となり企画・運営を行うことが出来つつある。</p> <p>○保護者アンケートから、やりたいことを決めて行動できるとの回答が65%であり、積極性も備わりつつある。</p>   | <p>○部活動やアルバイト等の体験活動に取り組む生徒が年次を追うにつれ増える。</p> <p>○生徒会の各種委員会が活発に活動し、各種行事を主体的に企画立案している。</p> <p>○環境目標を達成するための具体的実践を全校で進め、省資源・省エネルギー・SDGs(持続可能な開発目標)に関する意識が高まる。</p>  | <p>○「勉強+α」の推進(α:部活動、生徒会活動、アルバイト、インターンシップ、ボランティア等)。</p> <p>○委員会の活動内容を示し、生徒会執行部が中心となり、各種行事を主体的に企画運営できるように支援する。</p> <p>○「環境管理システム(TEASII)」を適切に運用していく。</p> <p>○環境美化に配慮した実践、エコ活動の推進、環境に良い取り組みとして、教職員全員が率先してエコ活動を実践していく。</p>  | <p>○「TEASII」の環境改善目標は概ね達成できている。</p> <p>○緑風祭や球技大会等、生徒会執行部が中心となり企画・運営ができたので、今後の活性化につなげたい。</p> <p>○県高等学校生徒会連盟大会では、バレーボールなどの競技で優勝するなどの好成績を収め、次年度の大会で通総体へ期待が持てる結果であった。</p> <p>○アルバイト就業事業11件、インターンシップ10件、ボランティア2件。体験事業に参加した生徒は、自信を得たりコミュニケーションの大切さを学ぶなど、一定の成果を得た。</p>   | <b>B</b>   | <p>○生徒を巻き込み、学校全体で「TEASII」の取組を継続していく。</p> <p>○生徒が話し合ったり、協力して活動できる機会や環境を作るなど、生徒会の活性化に向け、粘り強く取組んでいく。</p> <p>○年度当初にCAによるアルバイト説明会を持ち、長期的なアルバイトの推奨を図り生徒の社会性の向上を図る。</p> <p>○インターンシップ等、本校生徒の受け入れが可能な企業や事業所を開拓する。</p>  |
| <b>視野を広げ、他者<br/>と協力する体験活<br/>動の充実</b>             | <b>集団への適<br/>応力の育成</b>                   | <p>○高校生活を通して充実した日々を送っている生徒もいるが、人間関係作りや集団活動が苦手なため授業や学級活動、生徒会活動等への参加が消極的になりがちな生徒もいる。</p> <p>○全校生徒の70%が、学校生活において居場所や安心の材料があると感じている。</p> <p>○不登校傾向の生徒が一定数いる。</p>  | <p>○生徒が授業や学級活動、生徒会活動、学校行事等に積極的に関わろうとする姿がみられる。</p> <p>○年2回実施するhyper-QUの「学級満足度尺度」、「学校生活意欲の結果」において、改善がみられる。</p> <p>○hyper-QUや生徒実態把握の結果を生徒面談やクラス経営に積極的に活用する。</p>   | <p>○担任とSC、SSWとの協力によって家庭訪問や校外専門機関との連携を強化して、生徒の人間関係作りを支援する。</p> <p>○ひきこもり傾向の生徒に対しても、定期的な家庭訪問等の適切なかわりを粘り強く継続する。</p> <p>○hyper-QUや生徒実態把握の結果を生徒面談やクラス経営に積極的に活用する。</p>  | <p>○担任、学年団、養護教諭、SC、SSW、生活指導部、教育相談部が連携し、保護者の協力を得ながら生徒指導に取り組んだ。</p> <p>○SCの1年、2年生対象定期面談実施、SSWの校外機関への訪問・連携、担任の家庭訪問同行等を実施し、生徒状況等の把握に努めた。</p> <p>○生徒面談前にhyper-QU研修を行い、結果をクラス経営に活用できるようにした。</p> <p>○「学校に居場所や安心の材料がある」と回答した生徒の割合が71.7%であり、昨年度より微増した。</p> <p>○ユニバーサルデザインを学習環境に取り入れた。また、その手法を授業にも取り入れ「わかりやすい授業」の展開に努めた。</p>   | <b>B</b>   | <p>○校内外で連携を取りながら情報共有し、生徒個々と集団の両側面から学校生活への適応が図れるようチームでの指導・支援を継続する。</p> <p>○転編入生や長欠の生徒については、学期開始後できるだけ早期に担任・SC面談を実施する。</p> <p>○保護者懇談、生徒面談などにもSC・SSW・教育相談部も加わり、担任との連携をさらに密にする。</p> <p>○日頃の声掛け、あいさつ等を通して生徒の実態把握に努める。</p> <p>○今後も授業や教室のユニバーサルデザイン化に努め、居心地の良い学習環境の整備を目指す。</p> |

※はすわらクラブ:学年の枠を超えた多様な体験活動

評価基準 A:十分達成(100%) B:概ね達成(80%程度) C:変化の兆し(60%程度) D:まだ不十分(40%程度) E:目標・方策の見直し(30%以下)